

## 高梁川下流域を望む弥生集落・古墳群・山城跡

みなみやまじょうあと  
南山城跡

倉敷市

平成29年4月から小田川合流点付替え事業に伴い、南山城跡の発掘調査を実施しています。倉敷市真備町川辺と船穂町柳井原にまたがる南山城跡は、高梁川と小田川の合流点を見下ろす標高約70mの丘陵頂部先端に立地し、高梁川下流域に広がる総社平野を望むことができます。この城跡では、造成された平坦地（曲輪）、土を高く盛り上げた土塁、尾根を切断する堀切、堅堀を横に連続させた畝状堅堀などの遺構が発掘調査を行う以前から観察され、高梁川と山陽道が交差する水陸交通の要衝に築かれた中世の山城跡として知られていました。

この南山城跡の西側には、小規模な古墳がいくつか並んでいることも確認されていたため、今年度はこの部分から調査に着手しています。これまでの調査で、古墳は調査地外にある1基を含めて4基あることが分かったほか、南側の斜面で弥生時代の堅穴住居が見つかり、この時代の集落跡が広がっていることが新たに判明するなど、城が築かれる以前の様子が次第に明らかとなりつつあります。  
(米田克彦)



高梁川・小田川と総社平野を望む南山城跡（南から）



警察本部庁舎の整備に伴い、県庁敷地の南西側と県庁の約200m西側の2か所で発掘調査を行っています。調査地は、いずれも岡山藩の重臣や上級藩士の屋敷地が配置された岡山城二の丸跡に所在しています。南東側を旭川で、そのほかを内堀で囲まれた二の丸は、藩政の一翼を担っているとともに、「本丸」を守る軍事的な役割をもっていました。

今年の1月から4月にかけて実施した県庁敷地内の調査は、警察本部庁舎整備に伴うもので、3月までに文久3（1863）年の『備前岡山地理家宅一枚図』に描かれた道路や、瓦・陶磁器などを廃棄した穴などを確認しました。4月からはこれらより古い時代の様子を探るため掘り進めたところ、北から西へ鍵形に曲がる堀が現れました（写真1）。堀の東辺と南辺が調査地外であるため定かではありませんが、その規模は幅20m以上、深さ4m以上と想定されます。この堀が埋まった後に掘られた土坑の出土遺物や、県立図書館を建設する際に行った調査の成果などから、堀が機能していた時期は17世紀前半以前と考えられ、宇喜多期のものである可能性もあります。なお堀の西肩部で、胴木などの基礎構造や裏込め石などが認められない残存高約1mの野面積みの石積みが見つかりました（写真2）。40cm大の石を3～4段積み上げて築いたこの石積みは、堀の西側に広がる屋敷地の整備に伴って造られたものかもしれません。

県庁から約200m西側の場所では、車庫整備に伴う調査を6月から行っています。この場所は、江戸時代の絵図によると元禄の頃から岡山藩の支藩の一つである生坂藩主の屋敷地であったようです。調査では、南北に走る幅約6mの道路や土坑・柱穴列などを検出しました（写真3）。東・西両端に排水のための溝が掘られたこの道路では、いく層にも真砂土を叩き締めて路面を固めた様子が見られました。なお西側の溝には、50cm大の石を使用した石積みが見られます。

（小嶋善邦）



写真1 見つかった遺構（北西から）



写真2 石積み（東から）



写真3 道路跡（南から）



県道南浦金光線道路改築に伴い、4～7月に調査を行いました。場所は寄島山地の北麓に入りこんだ谷の奥で、対象地は県道の西側に沿った南北に細長い範囲です。調査の結果、対象地の北半で弥生時代中期、古墳時代後期、平安時代の生活の跡が見つかりました。弥生時代中期の遺構としては、土器や石斧の破片が埋まった穴がありました。また古墳時代後期では、須恵器とともに鉄滓が入った穴が検出され、この周辺に鉄生産に関わる遺構があった可能性もあります。さらに平安時代の柱穴の1つからは、深緑色をした基石状の玉が1点見つかりました。一方、対象地の南半は谷の斜面に当たり、生活の場としては適してなかったのか、遺構・遺物ともに希薄になります。（氏平昭則）



調査風景（南から）



弥生時代中期の穴（北西から）

県道水島港唐船線改築に伴い、昨年の9～10月と今年の6～7月に確認調査を行いました。場所は倉敷市の南西部、寄島山地東端の裾部です。現在は瀬戸内海から約1.5km内陸になりますが、鎌倉時代以前は付近まで海が迫っていたと想定されています。

縄文時代に営まれた中津貝塚は、屈葬人骨が見つかったことで知られており、その出土土器は縄文時代後期初頭の年代（約4,000年前）を示す「中津式」と呼ばれています。

調査はこの中津貝塚の広がりをも明らかにする目的で行いました。対象地は新池と呼ばれる溜め池の西側で、23か所の小規模な試掘坑を設けました。調査の結果、縄文時代と鎌倉時代の遺構を確認しました。縄文時代の遺構としては、貝塚が調査地の南端付近の斜面に良好に残っていることが明らかとなりました。そこからは、縄文土器や石器のほか、浅い泥海に棲息するハイガイを中心に、マガキ、アカニシ、オキシジミ、サルボウなど多種類の貝が見つっています。一方、鎌倉時代の遺構は柱穴が見つかりました。出土遺物としては、亀山焼や土師器などがあり、玉島で亀山焼の生産が盛んだった頃に営まれていた集落跡であることが明らかとなりました。（河合 忍）



縄文貝塚の調査風景（北西から）

## 県内の発掘調査報告会「大地からの便り2017」

7月1日（土曜日）の午後、昨年度の主要な調査成果を映像を交えて紹介する報告会を開催しました。今回は、総社市・津山市教育委員会にご協力いただき、5件の調査について紹介しました。久しぶりに県立美術館での開催となりましたが、82名の方々にご参加いただきました。

### 和田谷遺跡（浅口市）・マキサヤ遺跡（里庄町）

寄島山地北麓の丘陵斜面に位置する和田谷遺跡は、弥生時代から鎌倉時代にかけて営まれた集落跡です。特に注目されるのは平安時代の建物群で、大形の総柱建物があり、緑釉陶器などが出土していることから、有力者の居宅とも考えられます。和田谷遺跡の南西1.6kmにあるマキサヤ遺跡では、付近から投棄されたと思われる縄文時代後期の遺物が河道跡からまとまって出土し、調査例の少ないこの時期の貴重な資料となりました。（森本直人）

### 狩谷遺跡群（総社市）

狩谷遺跡群は、総社市西部を流れる新本川北岸の丘陵上にあります。平成24年度に弥生時代の集落跡や古墳時代の土坑墓群を検出しましたが、今回の調査地点はその北側にあたります。横穴式石室に畿内産土師器を副葬した4号墳や、箱式石棺に小形仿製鏡・刀子などを納めた5号墳、箱式石棺内に2体の人骨がかなり良好に遺存していた6号墳のほか、弥生時代の土坑墓10数基などがあり、斜面に流出した土砂からは特殊器台が見つかりました。（総社市教育委員会 前角和夫）

### 門の山古墳群（津山市）

津山市街地南西の丘陵上に位置する門の山古墳群は18基の古墳からなる古式群集墳で、これまでに6基の古墳が調査されています。今回調査した6・7・15・16号墳は、いずれも直径8～11mの円墳ですが、主体部は縦穴式石室・箱式石棺・木棺と様々で、鉄器や玉類、須恵器などの出土遺物から5世紀末～6世紀前半に築かれたものと思われます。また、古墳の下から縦穴住居が見つかり、弥生時代の集落が営まれていたことも明らかとなりました。（津山市教育委員会 平井泰明）

### 前田遺跡（倉敷市）

前田遺跡は、高梁川西岸の船穂丘陵に入りこんだ谷の出口に位置する古墳時代の製塩遺跡で、当時は海が間近に迫っていたものと思われます。見つかった2基の炉跡は、いずれも2×1.5mを測る隅丸方形の穴に砂利を敷き粘土を貼った構造で、古墳時代後期の製塩土器を伴っています。また、古墳時代前期や中期の製塩土器も出土していて、平城京跡出土の荷札木簡から推定されていたこの地域の塩づくりが、古墳時代にまで遡ることが明らかとなりました。（藤井翔平）

### 百間川一の荒手・二の荒手（岡山市）

江戸時代の17世紀後半に、岡山城下を流れる旭川の放水路として築かれた百間川には、三つの荒手（洗い堰）が設けられていましたが、このうち分流部に現存する一の荒手（旭川の洪水を百間川に導くための施設）と二の荒手（流入した水の勢いを弱め、土砂を沈殿させる施設）について調査を行いました。いずれも後世に改修が繰り返されたためか、今回の調査では江戸時代に遡る遺構を確認できませんでしたが、当時の水防技術を今に伝える貴重な土木遺産として、補強を行った上、現地に保存されることになりました。（岡本泰典）



発表者の方々



## こども体験教室

こども体験教室1「土器をつくろう」を5月20日（土曜日）に古代吉備文化財センターにおいて開催しました。参加者は25名で、最初に弥生土器の説明を聞いた後、実際に土器をつくりました。皆さんは、粘土を積み上げて土器の形を整えた後、道具を使って文様をつけるなどして、熱心に自分だけの弥生土器を完成させていました。

7月22日（土曜日）には、生涯学習センター人と科学の未来館サイピアでこども体験教室2「布を織ろう」を開催しました。20名の参加者は「むかしの布づくり」について説明を聞いた後、簡単な織機を使って布を織りました。細かい作業もありましたが、親子で力をあわせて色とりどりの作品を完成させました。



土器作りに熱中！



親子で協力して布を織り上げます

## 夏休み企画☆ワクワク古代体験！ 平成29年8月22日(火曜日)～25日(金曜日)

生涯学習センター交流棟・人と科学の未来館サイピアにおいて開催しました。実物の土器に触る、弥生土器の立体パズルを組立てる、勾玉や鏡をつくるなどの古代体験や、出土品の見学などを通じて地域の歴史を学んでもらうコーナーなど、多彩なメニューを用意しました。

4日の間に、小さいお子さんから大人の方まで延べ467名の参加がありましたが、皆さんが楽しみながら古代の暮らしにふれていただけたようです。

センター夏休みの恒例事業として、地域に根ざす行事に育っているように感じられました。



会場の様子



鏡づくりの様子

# 平成29年度の催し物案内

## 津島遺跡文化財講座「住まいの考古学」

岡山県総合グラウンドの中に整備された国史跡津島遺跡に関連する文化財講座（全3回）を開催します。昔の人々はどのような建物に住み、どのような生活をしていたのでしょうか。それぞれのテーマにそって、職員が分かりやすく解説します。

- 第1回 平成29年9月30日(土)  
講義1:土葺きと草葺き 講義2:囲炉裏とカマド
- 第2回 平成29年11月25日(土)  
講義1:倉と貯蔵穴 講義2:井戸と水路
- 第3回 平成30年2月24日(土)  
講義1:屋敷と建物 講義2:住まいを復元する

なお、会場や募集内容は次のとおりです。

- 会 場 岡山県立博物館講堂(岡山市北区後楽園1-5)  
募集定員 各回140名(申込多数の場合は抽選)  
申込期間: 第2回 平成29年10月23日~11月6日  
第3回 平成30年1月22日~2月5日



津島遺跡の復元住居

## 津島やよいまつり

県総合グラウンド内にある津島やよい広場、遺跡&スポーツミュージアムにおいて、勾玉づくりや火起こし、土器復元などの体験イベントを開催します。広場に復元されている弥生時代の竪穴住居や建物の見学案内や出土品の展示解説を行います。

- 会 場 岡山県総合グラウンド(岡山市北区いずみ町)内  
津島やよい広場、遺跡&スポーツミュージアム
- 日 時 平成29年10月28日(土)・29日(日) 午前10時~午後3時
- 定 員 なし(申込不要、混雑時は制限あり)



石包丁での収穫体験

## ふるさとの山城探訪

岡山県内の中世山城を訪ねて、城のつくりやその地域の歴史について学びます。

- 会 場 備中松山城跡(高梁市内山下)
- 日 時 平成29年12月9日(土) 午前9時~午後4時
- 定 員 30名(申込期間11月13日~27日、申込多数の場合は抽選)



備中松山城跡(高梁市教育委員会提供)

## 講演会「王墓から古墳へ -倭人と東アジア世界-」

九州国立博物館の河野一隆文化財課長、大阪市立大学の岸本直文教授を講師に、弥生時代から古墳時代にかけての政治変動を、東アジア的な視点から講演します。

- 会 場 岡山県生涯学習センター(岡山市北区伊島町3丁目1-1)
- 日 時 平成30年1月20日(土) 午後1時~4時
- 定 員 150名(申込期間12月11日~25日、申込多数の場合は抽選)



倉敷市楯築遺跡(弥生時代最大級の墳墓)



# 古代吉備文化財センターに来てね!

古代吉備文化財センターでは、学校教育や生涯学習を目的に来所される団体に、通常公開していない館内の案内をしています。

センターの業務をご理解いただくため、職員が解説しながら1時間程度で館内を見学していただきます。ここでは、小学生の見学風景をあげながら、センター見学コースの一例をご紹介します。

## 古代吉備文化財センター見学コース(所要時間1時間程度)



### 復元室

壊れている出土品は接着剤などを使って元の形に戻します。



### 写真室

色や形、材質など出土品の様子を記録するために写真を撮ります。



### 実測室

出土品の作り方や使われ方を観察しながら、細かく計測して図面をつくります。



### 展示室

出土品の一部を時代順に展示するほか、テーマを決めて公開しています。



### 収蔵庫

出土品はケースに収納して大切に保管しており、その数は5万箱にも上ります。



### 木器・鉄器処理室

そのままでは痛んでしまう木製品や鉄器は、薬品をしみ込ませて強化します。

## 土器の復元体験や屋外展示の見学も人気です。



土器の復元体験



屋外展示の見学



詳しくはセンターホームページ(<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/shinsei-form.htm>)、又は直接センターへお尋ねください。

## ◆美作における政治・経済の中心地

津山市街地の北西に広がる高台は、現在、閑静な住宅街となっていますが、ここが、和銅6（713）年に備前国の一部を割いて設置された美作国の中心地、美作国府跡であることをみなさんご存じでしょうか？

この一帯では、昭和45（1970）年に行われた中国自動車道建設に先立つ調査を皮切りとして、いく度か発掘調査が行われています。その結果、奈良～平安時代の掘立柱建物（写真上）や井戸、堀などの跡が見つかり、国の政務を執り行った役所（国庁）の様子が次第に明らかとなりました。とりわけ、総社宮の東側にある国府台寺の近くでは、広場を囲むように配置された数棟の大型建物が見つかり、都から派遣された国司が政務や儀式を行った、役所の中心施設（政庁）の跡と推定されています。国府台寺の境内には、「国庁遺址碑」と刻まれた明治時代の石碑が建てられていますが、百年余りの時を経た今、それが誤りではなかったことが発掘調査によって証明されたのです。さらに、役所の周辺では、土地を南北に区切る溝や道路の跡が一定の間隔で見つかっていて、当時の都であった平城京を縮小したような都市づくりが行われたことも分かってきました。

こうした発掘調査で見つかった品々の中には、役所の屋根に葺かれた瓦や、役人が使用した石帯（帯の飾り）、陶硯（焼き物の硯）、檜扇（木製の扇）、大刀の金具のほか、緑釉・灰釉陶器などの高級食器、国司の役職を墨書きした土師器（写真下）、国府が置かれた吉備郡の「吉」が刻印された須恵器など、美作国の政務を執り行った役所を彷彿とさせるものが数多くあります。

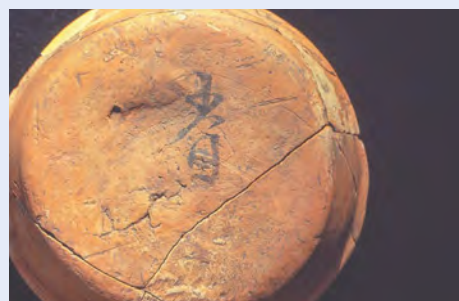
律令体制が衰退した平安時代には、各国とも役所の施設を維持することは次第に難しくなっていたようですが、美作国府ではむしろこの頃の遺構の方が多く見つかっており、それまでの政治の中心から、多くの人々が集住する経済の中心として、新たな変貌を遂げていたのかもしれない。

今もこの住宅地の下には、1,300年に及ぶ美作国の歴史が埋もれているのです。

（小林利晴）



大型掘立柱建物



役職「少目」が書かれた土師器



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

- 交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分  
JR桃太郎線吉備津駅下車徒歩25分
- 業務時間 AM8:30～PM5:15
- 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始
- 展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。  
ただし、臨時に休館することがあります。